

主日礼拝

2022年11月06日
午前10時30分

前奏

参集（報告・紹介・予定）

招詞

「²⁰主をたたえよ

日々、わたしたちを担い、救われる神を。

²¹この神はわたしたちの神、救いの御業の神

主、死から解き放つ神。」（詩編 68:20,21）

頌栄 26「グロリア」



グロリア グロリア グロリア ち ちと み子に



グロリア グロリア グロリア せいなる 霊に

リタニー 「聖徒の日のリタニー」

司式者：神さまは、いのちをくださった。

みんな：神さま、いのちをありがとう。

司式者：いつか私たちは、

神さまのところに、帰っていきます。

みんな：どうぞ、神さま、お守りください。

司式者：亡くなった人も、今、ここにいる私たちも

みんな：神さまに守られてひとつです。

司式者：声をあわせて、賛美しましょう。

一緒に：神さま、あなたこそ、私たちのいのちです。

アーメン

祈禱

献金 ご用意のある方は、神さまへの感謝の気持ちもってお献げください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、

ねがわくは み名をあがめさせたまえ。

み国を来らせたまえ。

みこころの天になるごとく

地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、

我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、

悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの

なればなり。アーメン。

1 サラの生涯は百二十七年であった。これがサラの生きた年数である。2 サラは、カナン地方のキルヤト・アルバ、すなわちヘブロンで死んだ。アブラハムは、サラのために胸を打ち、嘆き悲しんだ。3 アブラハムは遺体の傍らから立ち上がり、ヘトの人々に頼んだ。

4 「わたしは、あなたがたのところに一時滞在する寄留者ですが、あなたがたが所有する墓地を譲ってくださいませんか。亡くなった妻を葬ってやりたいのです。」

5 ヘトの人々はアブラハムに答えた。

「どうか、⁶御主人、お聞きください。あなたは、わたしどもの中で神に選ばれた方です。どうぞ、わたしどもの最も良い墓地を選んで、亡くなられた方を葬ってください。わたしどもの中には墓地の提供を拒んで、亡くなられた方を葬らせない者など、一人もいません。」

⁷アブラハムは改めて国の民であるヘトの人々に挨拶をし、⁸頼んだ。

「もし、亡くなった妻を葬ることをお許しいただけるなら、ぜひ、わたしの願いを聞いてください。ツォハルの子、エフロンにお願いして、⁹あの方の畑の端にあるマクペラの洞穴を譲っていただきたいのです。十分な銀をお支払いしますから、皆様方の間に墓地を所有させてください。」

¹⁰エフロンはそのとき、ヘトの人々の間に座っていた。ヘトの人エフロンは、町の門の広場に集まって来たすべてのヘトの人々が聞いているところで、アブラハムに答えた。

¹¹「どうか、御主人、お聞きください。あの畑は差し上げます。あそこにある洞穴も差し上げます。わたしの一族が立ち会っているところで、あなたに差し上げますから、早速、亡くなられた方を葬ってください。」

¹²アブラハムは国の民の前で挨拶をし、¹³国の民の聞いているところで、エフロンに頼んだ。

「わたしの願いを聞き入れてくださるなら、どうか、畑の代金を払わせてください。どうぞ、受け取ってください。そうすれば、亡くなった妻をあそこに葬ってやれます。」

¹⁴エフロンはアブラハムに答えた。「どうか、

¹⁵御主人、お聞きください。あの土地は銀四百シケルのものです。それがあなたとわたしの間で、どれほどのことでしょうか。早速、亡くなられた方を葬ってください。」

¹⁶アブラハムはこのエフロンの言葉を聞き入れ、エフロンがヘトの人々が聞いているところで言った値段、銀四百シケルを商人の通用銀の重さで量り、エフロンに渡した。¹⁷こうして、マムシの

前のマクペラにあるエフロンの畑は、土地とその洞穴と、その周囲の境界内に生えている木を含め、18町の門の広場に来ていたすべてのヘトの人々の立ち会いのもとに、アブラハムの所有となった。19その後アブラハムは、カナン地方のヘbronにあるマムシの前のマクペラの畑の洞穴に妻のサラを葬った。20その畑とそこの洞穴は、こうして、ヘトの人々からアブラハムが買い取り、墓地として所有することになった。

賛美 390 (1,3,4) 「主は教会の基となり」

The Church's one foundation
詞：Samuel J. Stone, 1839—1900 曲：Samuel G. Wesley, 1810—1879 AURELIA

① 主は教会の基となり、
 ② 世界は集められて、
 ③ 惜みあそい われらを裂き、
 ④ 世にある民も 去りし民も

- ① 主は教会の 基となり、
 みことばをもて これをきよめ、
 われらを死より ときはなちて、
 仕うる民と なしたまえり。
- ② 世界の民は 集められて、
 ひとつのからだ、ひとつの糧、
 ひとつの望み、共にわかち、
 ひとりの神の み民となる。
- ③ 惜みあそい われらを裂き、
 人はあざけり ののしるとも、
 神はわれらの 叫びをきき、
 なみだにかえて 歌をたまわん。
- ④ 世にある民も 去りし民も
 共にまじわり、神をあおぎ、
 永遠の勝利を 待ちのぞみて、
 イエスの来ますを せつに祈る。

説教「天国への足がかり」

聖餐式

賛美 385 「花彩る春を」

詞：上原英枝, 1961— 曲：高柳晋一, 1941 INOCHI

- 1 花彩る春を この友は生きた、
 いのち満たす愛を 歌いつつ。
 悩みつまずくとき、この友の歌が
 私をつれもどす 主の道へ。
- 2 緑もえる夏を この友は生きた、
 いのち活かす道を 求めつつ。
 悩みつまずくとき、この友のすがた
 私をふりかえる 主の道で。
- 3 色づきゆく秋を この友は生きた、
 いのち 他人のために 燃やしつつ。
 悩みつまずくとき、この友は示す
 歩みつつけてきた 主の道を。
- 4 雪かがやく冬を この友は生きた、
 いのちあたたためつつ やすらかに。
 この日、目を閉じれば 思いうかぶのは
 この友を包んだ 主の光。

派遣

司式者 主は言われます。
 「わたしは誰を遣わすべきか。」
 会衆 わたしがここにおります。
 わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏

司式 山野上 純子
 説教 向井 希夫牧師
 奏楽 佐々木 悠
 助餐 塩冶みはる(準備・片付け)

※お立ちになるのが困難な方は、
 座ったままで礼拝をお守り下さい。
 ※賛美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。

【誕生会のリタニー】

司式者：神さまは、11月生まれの方々に
 誕生日を与えてくださいました。
 いのちをくださる神さま、
みんな：ありがとうございます。
 司式者：神さまは、生まれてから今日まで、
 この方々の成長を支えてくださいました。
 育ててくださる神さま
みんな：ありがとうございます。
 司式者：神さまは、どんなときにもいっしょに
 いてくださいます。
 守ってくださる神さま
みんな：ありがとうございます。
 司式者：神さまからの愛のプレゼント、
 11月生まれの方々の誕生日を
 みんなで喜びお祝いします。

祝福のお祈り 牧師